

## 巻頭言

# 石川県能登半島の地震に思うこと

徳島県剣道連盟 会長 藤川 和 秋



令和六年一月一日発生した石川県能登半島地震により一月十一日時点で死者が二百十三人に達しました。正月早々に痛ましい災害が起こりました。日本全国で不安な年明けになっています。徳島県は幸いにも天気にも恵まれ平穏な年明けを迎えることができましたが、痛ましい災害を他人ごとと思わず、亡くなったひとの分までしっかりと生きて行くという、同じ国民としての連帯感が必要だと思います。徳島県剣道連盟としても、令和六年は何を重点に活動していくかを考えてみますと

- 中学、高校を含めた少年剣士の指導育成
- 女子剣士の発掘と指導育成
- 徳島県立新武道館建設要望の具現化
- 徳島県剣道連盟の組織見直しと基盤の強化

などが上げられます。連盟会員の皆様や部活や剣道教室の保護者等の皆様のご協力を頂きながら、今年一年頑張っていけたらと思います。

また、各会員の皆様が、仕事もしながら自ら剣道の修練を積み、また少年剣士の指導育成にも頑張っておられる姿に感謝と敬意を表したいと思います。

昨年の年末に南部の審査運営を担当する丸岡偉人先生からお電話を頂きました。「長年南部審査を担当してきましたが、後任ができたので退任します。」との内容で、長年ボランティアで大任を果たされたことに本当に感謝しお礼を申しあげました。徳島県剣道連盟はこのようにボランティアで支えられている部分がほとんどであり、今後もこの精神が徳島県剣道連盟の運営に大きな支えとなっていくものと思います。

石川県能登半島の被災者の皆さんの悲しみや、これからの頑張りに負けないよう、我々剣道にたずさわる者として、今できること、今やらなければならぬことをしっかりと見据えて進んで行かなければならないと痛感しています。

連盟会員や関係者の皆さまには、今年一年、健康に留意し自らの剣道修行に取り組み、また地域での少年剣士の指導育成や支援にも頑張っていけたらと思います。